

趣味・随想

趣味と人生

東京弁護士会 澤田直宏 (43期)

1 少年時代—手品

私は、中学を卒業する頃までは、毎日、授業が終わったら何をして遊ぶかと「遊び」のことばかり考えて、「勉強」はほとんどしない勉強嫌いの少年でした。漫画が好きで、「貸本屋」で漫画を借りて読みあさったり、くず鉄を拾って「くず屋」に売って駄菓子を買ったり、空き地に積み重ねられていたリンゴの木箱で秘密基地を作って土地所有者に怒られたりしていました。そのため、中学時代は、教師からは睨まれ、成績の良い生徒と差別扱いする教師を逆恨みして、「卒業までに仕返ししてやる」などと考えていました。

そんな私の当時の趣味が手品でした。小学2年頃、借りた漫画に紹介されていた簡単な手品を学校の友だちの前で披露したところ、大喜びしてくれたことから、得意になって、少しずつ、独学で手品を勉強して集めるようになりました。昭和40年代頃、ピンポン球みたいな玉が指の間で増えたり減ったりしていく「シカゴの4つ玉」とか、大きな金属製の輪が繋がったり離れたりする「リンキングリング」という古典的な舞台手品がテレビなどで流行っていましたが、高くて買えず、工事現場や道ばたに落ちてくる「くず鉄」を拾って売ったり、小遣いを少しずつ貯めたりして数年がかりで購入したこともありました。

手品の趣味は、今でも、法律講演をする時などに、聞いて下さる皆さん方の息抜き目的で披露したりして役立てています。

2 青年時代—読書

中学3年になって、友達が高校受験で勉強に忙し

くなると、一人取り残された孤独感に襲われ、ますます、勉強嫌いになり、高校には進学せず、少年自衛官として陸上自衛隊に入隊しました。自衛隊に行けば勉強せずに済むと思って入隊したのに、通信制高校に入学させられ、一日の半分は戦闘訓練でしたが、半分は座学、就寝前にも2時間位の強制自習と、「体力」と「知力」を無理矢理に鍛えられる格好になりました。一棟の建物に日本全国から集められた500人位の血気盛んな若い男ばかりが毎日24時間生活をともにしていたので、時として喧嘩をすることもありましたが、芋洗いのように、互いに磨き合える人間鍛錬の場でした。私も、仲間が勉強する姿を見て、少しずつ勉強をするようになり、日々の訓練を通して、多少なりとも心身を鍛えられたと、今でも、当時の上官や仲間達に感謝をしています。

自衛隊では、航空機整備員として訓練を受けて実戦部隊に配属されましたが、本当は自分で操縦したいのに地上で整備をしている現実を前に「人生なんてつまらない」と自殺を考えるなど、人生に悩みはじめたことを契機に、色々な書物を読むようになり、次第に「読書」が趣味になっていきました。自分の知らない世界や考え方を「読書」から学びました。その後、航空自衛隊のパイロット養成試験に合格し、念願叶ってパイロットとして訓練を受けはじめました。

しかし、読書を続けていくうちに「人生いかに生きるべきか」などと考えはじめるようになるとともに、パイロットになる意欲を失っていったことから、6年半お世話になった自衛隊を依願退職して、より価値的な生き方を求める思いで、東京八王子にある

創価大学を受験し、弁護士目指して法学部に入学しました。入学後、大学の校舎入口の左右に置かれたブロンズ像の台座に「英知を磨くは何のため、君よそれを忘るるな」「労苦と使命の中にのみ人生の価値（たから）は生まれる」との大学創立者の言葉に大いに感動したことを今でも良く覚えています。

3 壮年時代—犬の散歩とスポーツ

勉強嫌いの過去が祟ったのか、司法試験に苦労の末にようやく合格して弁護士になったのは30代後半でした。話しは飛びますが、その後、45才の時に、妻を事務員として2人で独立開業し、現在51才。独立後6年の間に大学の後輩弁護士2人を招き入れて弁護士3名、事務員4名の総勢7名の事務所となりました。

気持ちは、20代の時のまま停止しており自分では若いつもりでしたが、次第に薄くなっていく髪の毛や中年太りとなった自分の姿を鏡に映すたびに、肉体的衰えの現実には溜息をつくようになりました。また、独立開業時に捨て犬を友人に押しつけられてから、毎朝、犬を散歩に連れて行くのが私の日課ですが（ご近所の方々と親しくなれる効用があり、今では趣味の一つになっています）、飼い始めて数年は犬と一緒に「走っていた」のに、次第に、犬に引っ張られながら「歩いている」自分に気が付きました。昨年夏頃からは、身長173cmに対し、80kg以下の体重で安定していたのが、81、82kgと次第に増え始め、健康診断の数値も思わしくなく、「あ～、このままでは成人病になる」と強い危機感を感じるようになりました。

そこで、昨年8月、一念発起してスポーツジムに入会し、一日か二日置きに基礎代謝量を増やすため

の「ウェイトトレーニング」と、脂肪を燃焼させて減量するためのランニングマシンでの「有酸素運動」をはじめました。以前にも何度となく入会してチャレンジを試みていたのですが、仕事の忙しさと疲れから毎月の会費を払うだけの幽霊会員で終わっていました。しかし、今回は、健康に対する強い危機意識もあり、「やる！」と決めて、どんなに疲れていても、夜遅くなってもジムに通い続けました。胸の筋肉をつけるベンチプレスは最初は30kgがやっとなりましたが、今では65kgが軽く上がるようになり、ランニングも時速8kmで20分も走るとダウンしていたのが、今では時速11kmで30分走り続けることが出来るようになりました。最近では、苦しさを乗り越えたと楽になる「デッドポイント」を通過するのが体感するのが楽しみになってきています。約5ヶ月で体重が最大時の82kgから77kgと5kgの減量ができ、お腹周りがすっきりしてきて、犬の散歩も以前のように犬と一緒に「走る」ようになりました。これからも「死ぬまで健康」で生き抜くことを目標にスポーツを生涯の趣味の1つとして頑張っていきたいと考えています。

4 最後に

青年時代に「人生いかに生きるべきか」で悩んだ末、「蔵の財よりも身の財すぐれたり、身の財よりも心の財第一なり」との言葉に出会い、これを座右の銘として、弁護士である前に一人の人間として「心」を磨き続け、「健康」で良い仕事をして、そこそこに「蔵の財」を残しても、「悔い」を残さない人生を全うしたいと考える今日この頃です。

取り留めのない文章を最後までお読み下さりありがとうございました。